

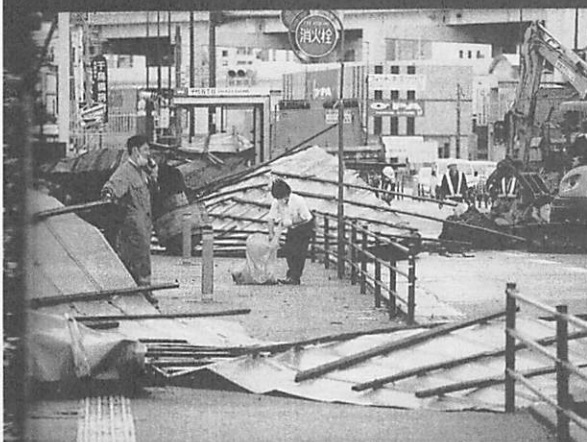
FRIDAY 9/25



佐賀県は7日に全域が暴風域に入り、県庁前に植えられていた太い街路樹が根元から完全になぎ倒された



台風10号によって倒壊した鹿児島県枕崎市の海岸沿いに建つ家屋。幸いにも空き家だったため、ケガ人は出なかった



福岡県福岡市内では工場の屋根が吹き飛ばされて道路をふさいでしまい、地元業者が復旧作業に追われた



九州の各地で電柱・電線が破損し、停電が発生。宮崎県西都市では、強風によって電柱がへし折られた

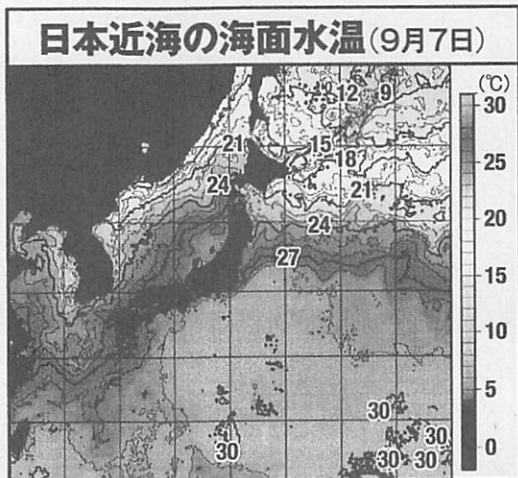
緊急警鐘レポート
台風シーズンは
まだこれから

この秋、過去最強クラス スーパー台風が上陸する

海面水温は紀伊半島沖から
関東地方の南東まで異常な高さ

上の写真を見てほしい。
台風10号は九州の西側を通過し、一時は約46万4000戸が停電するなど、各地に深い爪痕を残した。
だが、これは台風シーズンのまだ始まりにすぎない。次に日本列島を襲う台風は、さらに甚大な被害をもたらすことだろう。台風の研究を行っている横浜国立大学教授の筆保弘徳氏はこう指摘する。
「台風が通過すると、水深深くの海水までかき混ぜることで、海面水温が1〜2℃ほど下がります。10号によって九州近海の海面水温は下がりましたが、東海地方や関東地方の沿岸の海面水温は依然として高いままです。平年差でみると、2℃も高いところが多い。これは何十年に一度の異常な熱さと言えます」
右下の図は台風10号が通過した後、9月7日の日本近海の海面水温を示したものの。これを見れば一目瞭然だが、日本の南方の海面水温は30℃を記録している。しかもその範囲が広大だ。今年は猛暑が続いたが、それは日本近海も同じ。太陽を過剰に浴びた海面は、台風9号や10号の通過後もほとんど水温が下がっていない。
一般的に海面水温26〜27℃の海域で台風は発生し、27℃以上だと発達する。

今後日本の南方で発生し、北上する台風は、高い海面水温によって、風速67m以上の「スーパー台風」となることが十分にありえる。
ウエザーマップ会長で気象予報士の森田正光氏はこう懸念する。
「今年5月、WMO（世界気象機関）は、台風の発生数は減っているが、大型で勢力は強くなると発表しました。まさにその通りになっています。台風は海のエネルギーを吸い取るという側面もあります。つまり、発生数が少ないということは、まだエネルギーが残されているということ



▶9月7日の日本近海の海面水温。日本の南方の水温が広い範囲で30℃となっている。（気象庁のデータを基に作成）